

「小学社会」と「中学社会」の単元系統表

Table with columns for 学年 (Year), 地理的な内容 (Geographical Content), 歴史的な内容 (Historical Content), 公民的な内容 (Civic Content), and 資料活用の系統 (System of Resource Utilization). It details the progression of social studies topics from elementary school (小3 to 小6) through middle school (中1 to 中3) to high school (高等学校).

【地理的分野】 小・中社会科の連携表

Table with columns for 学年 (Year), 地理的な内容 (Geographical Content), 学習の中心概念 (Core Learning Concepts), and 取り上げている重要語句 (Key Terms). It provides a detailed breakdown of geographical topics and their associated concepts and terminology across elementary, middle, and high school levels.

【歴史的分野】 小・中社会科の連携表

学年	歴史的な内容	学習の中心概念	取り上げている重要語句
前期	小3 「4 わたしたちの市の歩み」 (市区町村や人々の生活の様子の移り変わり)	・これまで、人々の生活の中で使う道具が変わるとともに、暮らしの様子も移り変わってきた。 ・市の交通、土地の使われ方、人口、公共施設は、時期によって移り変わってきていて、それぞれに関わりが見られる。	明治時代 年表
	小4 「4 地域で受けつがれてきたもの」 (都道府県内の文化財や年中行事) 「5 昔から今へと続くまちづくり」 (地域の発展に尽くした先人のほたらき)	・県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々のさまざまな願いが込められている。文化財や年中行事を保存・継承していくために自分たちができる取り組みがある。 ・県内の地域には、よりよい暮らしを求める人々の願いにこたえて、地域の発展に尽くした先人がいた。その動きと苦心によって、地域は新田開発されて発展し、人々の生活は向上した。	年中行事 伝統芸能 伝統行事 文化財 新田開発 人々の願い 工事のくふう
中期	小5	・狩猟・採集を中心とした生活から農耕中心の生活へ人々の暮らしが変化し、社会の様子も変わっていった。各地に大きな勢力をもつ豪族が現れ、やがて大和朝廷によって国土が統一された。 ・大陸の政治や文化に学びながら、天皇を中心とした中央集権の国づくりが進められ、都に大仏がつくられた頃に確立した。やがて、大陸の文化を消化・吸収した独自の日本風の文化がおこった。 ・武士が力をもつようになり、源頼朝が鎌倉に幕府を開いて、武士による政治が始まった。 ・室町幕府が置かれた頃に生み出された文化は、現在の生活文化につながる要素をもっており、今も受け継がれて多くの人々に親しまれている。 ・織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の業績によって、全国が統一されていった。	狩りや漁・採集 米づくり 古墳 大和朝廷 渡来人 天皇 仏教 律令 貴族 大陸の文化 国風文化 武士 征夷大将軍 鎌倉幕府 ご恩と奉公 元との戦い 室町幕府 書院造 水墨画
	小6 「2 日本の歴史」(古代～中世～近世～近代～現代) (各時代の特徴、歴史上の人物(42人)のはたらき)	・江戸幕府のもとで、武士を中心とする身分制度が確立し、武士の政治が安定した。 ・社会が安定する中で、人々が力をつけ都市が発展していった。そうした中から、歌舞伎や浮世絵などの新しい文化や、国学や蘭学などの新しい学問が生み出され、幕府を批判する動きにつながっていった。 ・明治政府は、西洋の文化や仕組みを取り入れながら、天皇を中心とした近代的な国家をめざして、政治や社会の新たな仕組みづくりを進めた。 ・立憲政治の確立や日清・日露戦争での勝利、不平等条約の改正、科学の発展などによって、日本の国力が充実し、国際社会における地位が向上していった。また、産業の発展に伴って、人々の暮らしや社会が変化した。 ・日本は、アジア・太平洋地域で世界の国々と戦争をし、長く続いた戦争によって、国民は大きな被害を受け、他国にも大きな損害をあたえた。 ・戦後、日本は平和で民主的な国づくりに取り組み、国際社会からの信頼を回復した。国民生活も豊かになり、国際社会において重要な役割を果たしてきた。	全国統一 キリスト教 検地 刀狩 江戸幕府 武家諸法 参勤交代 身分 年貢 鎖国 歌舞伎 浮世絵 蘭学 国学 寺子屋 儒学 百姓一揆 打ちこわし 明治維新 開国 富国強兵 文明開化 条約改正 自由民権運動 大日本帝国憲法 日清戦争 日露戦争 植民地 民主主義 満州事変 太平洋戦争 空襲 沖縄戦 原子爆弾の投下 日本国憲法 東京オリンピック・パラリンピック 高度経済成長
	中1 第1章 歴史のとらえ方・調べ方 第2章 原始・古代の日本と世界 第3章 中世の日本と世界 第4章 近世の日本と世界	・【第1章】(ア)年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解すること。(イ)資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめるなどの技能を身に付ける。自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめるなどの技能を身に付ける。 ・【第2章】(ア)世界の古代文明や宗教のおこり (イ)日本列島における国家形成 (ウ)律令国家の形成 (エ)古代の文化と東アジアとの関わり 古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、上記(ア)から(エ)までについて古代の社会の変化の様子を理解する。 ・【第3章】(ア)武家政治の成立とユーラシアの交流 (イ)武家政治の展開と東アジアの動き (ウ)民衆の成長と新たな文化の形成 武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、上記(ア)から(ウ)までについて中世の社会の変化の様子を理解する。 ・【第4章】(ア)世界の動きと統一事業 (イ)江戸幕府の成立と対外関係 (ウ)産業の発達と町人文化 (エ)幕府の政治の展開 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、上記(ア)から(エ)までについて近世の社会の変化の様子を理解する。	
後期	中2 第5章 日本の近代化と国際社会 第6章 二度の世界大戦と日本	・【第5章】(ア)欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き (イ)明治維新と近代国家の形成 (ウ)議院政治の始まりと国際社会との関わり (エ)近代産業の発展と近代文化の形成 ・【第6章】(オ)第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現 (カ)第二次世界大戦と人類への惨禍 工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議院政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、上記(ア)から(カ)までについて近代の社会の変化の様子を理解する。	
	中3 第7章 現代の日本と世界	・【第7章】(ア)日本の民主化と冷戦下の国際社会 (イ)日本の経済の発展とグローバル化する世界 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、上記(ア)及び(イ)について現代の社会の変化の様子を理解する。これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現する。	
高等学校 地理歴史科 【歴史総合】			

【公民的分野】 小・中社会科の連携表

学年	公民的な内容	学習の中心概念	取り上げている重要語句
前期	小3 「3 地いきの安全を守る」 (火災・事故への対処と防止、関係諸機関や地域の人々の諸活動)	・わたしたちのまちには、ものを売る仕事で働く人たちがいる。働く人たちは、仕事をすううえで、客の願いに合わせたさまざまな工夫や努力をしている。 ・わたしたちのまちには、製品(農作物)をつくる仕事で働く人たちがいる。働く人たちは、仕事の中で、さまざまな工夫をしている。 ・消防署は、さまざまな機関や地域の人たちと協力して、火事などの緊急時に備えたり、火災を防ぐ取り組みをしたりしている。自分やまちの安全を守るために、自分たちにもできることがある。 ・警察署は、さまざまな機関や地域の人たちと協力して、事故や事件に備えたり、安全を守る取り組みをしたりしている。まちの安全のために、自分たちにもできることがある。 ・市の交通、土地の使われ方、人口、公共施設は、時期によって移り変わってきていて、それぞれに関わりが見られる。	売り上げ ねだん 品ぞろえ 新せんさべんりさ サービス 品質 原料 えいせい 出荷 地産地消 作物カレンダー 土づくり 点検 くんれん 119番のしくみ 通信指令室 消防せつび 消防団 110番の通報 法やきまり こども110番の家 人口 ぜいきん
	小4 「2 健康な暮らしとまちづくり」 (水・電気・ガスを供給する事業、廃棄物を処理する事業) 「3 自然災害にそなえるまちづくり」 (自然災害から人々を守るための関係機関の活動)	・自分たちの生活から出たごみは、衛生的に処理されている。ごみ処理の対策や事業は、市と地域の人々との協力によって計画的に進められており、それによって、自分たちは快適で健康に暮らしていくことができる。 ・暮らしに必要な水道水を確認していくために、水道事業が広い地域の協力と人々の努力によって計画的に行われ、使った水は適切に処理されている。それによって、人々は健康で快適に暮らしていくことができる。 ・自分たちの地域では、さまざまな関係機関や地域の人々が協力して地震や津波災害に備えている。地域の一員として、地震や津波災害に備えて自分たちにもできる取り組みがある。	ごみの分別 清掃工場 最終処分場 資源ごみ リサイクル 3R 浄水場 ダムと 水源の森林 地域をこえた人々の協力 下水処理せつ 節水 水のじゅんかん 地域防災計画 関係機関の協力 過去に起こった地震 防災倉庫
中期	小5 「4 未来とつながる情報」 (情報や情報技術を活用して発展する産業と国民生活の向上) 「5 国土の自然とともに生きる」 (公害、国土保全と森林資源、自然災害の防止など)	・日本の国土の位置や広がりの特徴として、ユーラシア大陸の東にあり、大韓民国や中華人民共和国、ロシア連邦などと隣り合うこと、太平洋や日本海に囲まれた、南北に連なる大小の島々であること、などがある。 ・農家の人たちは、自然条件を生かしながら、さまざまな工夫や努力をしておいしく安心して食べられる米をつくっている。その米をより多くの消費者に届けるためには、流通に関わる人たちの動きや、消費量を増やすための新しい取り組みも大切である。 ・水産業に関わる人々は、水産資源と自然環境を守ることにも気を付けながら、さまざまな工夫や努力をして、新鮮で安心して食べられる水産物を消費者に届け、生産を続けていこうとしている。 ・国内の食料生産をこれからも続け、安心して食べられる食料を確保し続けるためには、質の高い生産に加えて、販売の工夫や新たな技術の開発なども大切である。また、わたしたち消費者も、輸入に頼りすぎないよう、食生活を見直していくことが大切である。 ・自動車の生産には、新たな機能の開発から輸送まで多くの人が関わっており、さまざまな工夫や努力をして消費者や社会のニーズに応えた自動車を生産し、届けている。 ・さまざまな輸送手段を利用し、貿易によって世界と結びつくことで、日本の工業生産は成り立っている。 ・重化学工業を中心としたさまざまな種類の工業生産が、海沿いの工業地帯など日本の各地で行われている。国内の生産を発展させていくには、中小工場なども高い技術や豊富なアイデアを生かし、人々の生活を豊かにする新たなものづくりに挑戦することが大切だ。 ・放送局の人たちは、多くの人に情報を伝えるマスメディアとしての責任をもち、重要な情報を正確にわかりやすく伝える工夫や努力をしている。私たちが、マスメディアの情報を上手に生かしていくこと、責任をもって情報を扱うことが大切である。 ・情報通信技術を利用することで、大量の情報を集めて管理し、分析できるようになり、さまざまな産業や暮らしの中で便利が増えている。その技術をどのように生かしていくべきか、自分に関する情報がどのように使われるのかなどを考えていくことも大切である。 ・日本の国土ではさまざまな自然災害が繰り返し発生している。それらの被害を少しでも減らすために、国や都道府県、市町村などが協力し合い、さまざまな対策を計画的に進めている。わたしたち一人ひとりが、日頃から防災の意識をもつことも大切である。 ・災害の軽減や水資源の確保、木材の供給など、森林にはさまざまなはたらきがあり、わたしたちの暮らしに欠かせない役割を果たしている。国土や暮らしを守るために、森林の手入れを行い、保全を続けていくことが必要で、わたしたち一人ひとりの協力も大切である。 ・環境の破壊は、人々の暮らしや健康に大きな影響を及ぼす。公害や環境破壊を発生させないよう、住民や市、工場などが協力して、環境にやさしい取り組みを続けていくことが大切である。わたしたち一人ひとりもできることを考え、実行していかなければならない。	国土 領土 水の管理 品種改良 耕地整理 生産調整 米の消費を増やす試み 水あげ せり 育てる漁業 水産資源の管理 食料自給率 地産地消 ライン 関連工場 ジャスト・イン・タイム方式 ニーズ ユニバーサルデザイン 貿易 天然資源 輸送手段 工業地帯、工業地域 中小工場、大工場 海外生産 情報 メディア、マスメディア 内容のチェック、確認 情報通信技術(ICT) 大量の情報(データ) 情報の流出 自然災害 公共事業 防災、減災 人工林 林業 森林の育成と活用 住民運動 公害防止条例 エコタウン
	小6 「1 とともに生きる暮らしと政治」 (日本国憲法の基本的な考え方と国や地方公共団体の政治のはたらきなど) 「3 世界の中の日本」 (日本とつながりの深い国の人々の生活の様子、国際的な交流・協力と日本の役割)	・憲法は国の政治や国民生活の基本的なあり方を定めており、民主的で平和な社会を旨とする日本の政治は、国民の暮らしの安定と向上のために重要な働きをしている。 ・地方公共団体の政治は人々の暮らしと深く結びついており、主権者である国民の暮らしの安定を向上のために重要な働きをしている。 ・日本は、さまざまな形で国際協力を行うことを通じて、平和な世界の実現のために大きな役割を果たしている。また、持続可能な社会の実現のために、国際社会の一員として、自分たちにもできることを実行していくことが大切である。	日本国憲法 選挙権 民主主義 基本的な人権の尊重 平和主義 国会 内閣 裁判所 三権分立 税金 少子化 高齢化 人口減少 社会 地方自治 社会保障 難民 NGO (非政府組織) 国際連合(国連) 持続可能な社会 政府開発援助(ODA)
	中1 中2		
後期	中3 第1章 私たちの暮らしと現代社会 第2章 個人を尊重する日本国憲法 第3章 私たちの暮らしと民主政治 第4章 私たちの暮らしと経済 第5章 安心して豊かに暮らせる社会 第6章 国際社会に生きる私たち 終章 私たちが未来の社会を築く	・【第1章】現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解する。現代社会における文化の意義や影響について理解する。現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解する。人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と個性の本質的平等、契約の重要性やそれを守るなどの意義及び個人の責任について理解する。 ・【第2章】人権の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解する。民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解する。日本国憲法が基本的人権の尊重、民主主義及び平和主義を基本的原則としていることについて理解する。日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と国事に関する行為について理解する。 ・【第3章】国会を中心とする日本の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解する。議院制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解する。国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解する。地方自治の基本的な考え方について理解する。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解する。 ・【第4章】身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解する。市場経済の基本的な考え方について理解する。その際、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解する。現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解する。勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神について理解する。 ・【第5章】社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢化社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解する。財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解する。 ・【第6章】世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解する。その際、領土(領海、領空を含む)、国家主権、国際連合の動きなど基本的な事項について理解する。地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解する。 ・【終章】私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述する。	
	高等学校 公民科 【公共】		